学　校　法　人　　新　庄　学　園

新　庄　東　高　等　学　校

令和３年度

第３学年Ａコース

教科目学習計画

～　校　訓　～

“自らの手で人生を開拓しよう”

それは努力によって

そして方法を考えて

すべて敬虔な態度で

教科	国語	科目	現代文Ｂ	学年	３（Ａ）	単位数	３
使用教材	教科書：高等学校　改訂版　現代文Ｂ 副教材：大学入試共通テスト対策問題集						
授業内容	近代以降の小説・評論文の読解演習 大学入試共通テスト・二次試験対策のための演習						
到達目標	近代以降の小説・評論文の読解力を身につける。 大学入試共通テスト・二次試験に対応できる力を身につける。						
評価方法	以下の観点で各学期評価する。 漢字テスト・小テスト・単元テスト(80%)　平常点(授業の取組状況・課題)(20%) 関心・意欲・態度……授業への取り組み 国語的な見方や考え方……授業への取り組み・課題 表現……授業への取り組み（授業での発表やまとめ）・単元テスト・課題 知識・理解……単元テスト						
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1 学期	4 月 5 月 6 月 7 月	○小説の読解１ 　テスト① ○評論の読解１ 　テスト②	２９	上記の通り
2 学期	8 月 9 月 10 月 11 月 12 月	○小説の読解２ 　テスト③ ○評論の読解２ 　テスト④ ○大学入試共通テスト・二次試験対策のための演習１ 　テスト⑤	５２	上記の通り
3 学期	1 月 2 月 3 月	○大学入試共通テスト・二次試験対策のための演習２	８	上記の通り
			８９	

学習計画及び評価方法　等　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	学習計画	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用　等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	D
1学期	[　　] ○オリエンテーション（1）	4月							
	○小説の読解１（　　） ・小説の読解の仕方 「山椒魚」「山月記」 ・朗読 ・漢字、語句 ・内容理解 ・主題をつかむ ・演習問題	5・6月	登場人物・場面設定・時代や社会的背景をつかむことができる。 登場人物の言動や作品内のできごとをつかむことができる。 登場人物の言動から、心情をつかむことができる。 主人公の言動から、主題をつかむことができる。 主題をまとめることができる。 主題に対して、自分の感想を持つことができる。 演習問題を繰り返すことで、小説を読解する力をつける。	教科書 Ｐ３３６～ Ｐ３６３		○	○	○	○
	○評論の読解１（　　） ・評論の読解の仕方 「経験の教えについて」 「新しい博物学を」 ・漢字、語句 ・段落構成をつかむ ・内容理解 ・主題をつかむ ・演習問題	6・7月	段落構成をつかむことができる。 段落ごとの内容をつかむことができる。 筆者の主張をつかむことができる。 演習問題を繰り返すことで、評論を読解する力をつける。	教科書 Ｐ３１６～ Ｐ３３５		○	○	○	○
	○単元テスト（1）					○	○	○	○
2学期	[　　] ○小説の読解２（　） ・演習問題	8月～11月	演習問題を繰り返すことで、小説を読解する力をつける。	共通テスト対策問題集	漢字・語彙・読解テスト	○	○	○	○
	○評論の読解２（　） ・演習問題		演習問題を繰り返すことで、評論を読解する力をつける。			○	○	○	○
	○大学入試共通テスト対策１（　　）		大学入試共通テストに向けての対策			○	○	○	○
	○小テスト（2） ○課題テスト（1）								

教科	国語	科目	古典Ｂ	学年	３Ａ	単位数	２
使用教材	教科書：新編古典Ｂ（東京書籍） 副教材：体系古典文法、解法古文単語３５０、新明説漢文、国語便覧						
授業内容	古典作品に触れながら、自らの考えの発展、その表現を行う。 古典作品の読解を通して、現代社会について考察する力を育成する。						
到達目標	古文・漢文の読解力を身につける。 進路希望に即した演習力を身に着ける。						
評価方法	以下の観点で各学期評価する。 小テスト・単元テスト(80%)　平常点(授業の取組状況・課題)(20%) 関心・意欲・態度……授業への取り組み 国語的な見方や考え方……授業への取り組み・課題 表現……授業への取り組み（授業での発表やまとめ）・単元テスト・確認テスト・課題 知識・理解……単元テスト・確認テスト						
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1学期	4月 5月 6月 7月	○古文：随筆「枕草子」「方丈記」 ○確認テスト１ ○漢文：小話 ○確認テスト２		上記の通り
2学期	8月 9月 10月 11月 12月	○古文：物語「伊勢物語」 ○確認テスト１ ○古文：歴史物語「大鏡」 ○確認テスト２ ○漢文：「史記」 ○確認テスト３ ○古文：物語「源氏物語」 ○確認テスト４		上記の通り
3学期	1月 2月 3月	○漢文：「中国の思想」 ○確認テスト		上記の通り

学習計画及び評価方法　等　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	学習計画	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用　等	考査範囲	評価の観点のポイント a	b	c	D
第1学期	○オリエンテーション ○古文 随筆「枕草子」 「方丈記」 ○単元テスト１	4 5	○古文 ・動作や発言の主体を確認しながら、古文を読むことができる。 ・作者の感性や思想に触れ、現代社会との共通点や相違点について考察できる。 ・用言の活用、助動詞の種類、敬語の種類を確認しながら、古文を読むことができる。	教科書 Ｐ８０～ Ｐ８５ Ｐ８７～ Ｐ８９	単元テスト１	○	○	○	○
	○漢文 小話 ○単元テスト２	6 7	○漢文 ・１、２年で学習した内容をもとに、漢文を読み、内容を理解できるようになる。 ・古代中国における理想の人物像について知り、生き方について考える。	教科書 Ｐ１９７～ Ｐ２０２	単元テスト２	○	○	○	○
第二学期	○古文：物語「伊勢物語」 ○確認テスト１	8 9 10 11	○「伊勢物語」 ・歌物語についての基礎知識を持つことができる。 ・古文・和歌を読み、登場人物の心情を読み取ることができる。 ・和歌の技法についての知識を得る。	教科書 Ｐ９１～ Ｐ９７	確認テスト１	○	○	○	○
	○古文：歴史物語「大鏡」 ○確認テスト２	12	○「大鏡」 ・歴史物語という新しいジャンルの物語の読解を通して、歴史性と文学性の交差ずる作品の面白さを知る。 ・登場人物の行動や心情理解を通して、古文の面白さを味わう。	Ｐ１０１～ Ｐ１１０	確認テスト２	○	○	○	○
	○漢文：「史記」 ○確認テスト３		○「史記」 ・高校３年間の漢文学習のまとめとして、長文の漢文を読み。理解することができる。	教科書 Ｐ２３５～ Ｐ２４２	確認テスト３	○	○	○	○
	○古文：物語「源氏物語」 ○確認テスト４		○「源氏物語」 ・日本文学の最高峰である源氏物語を読み、古文読解の力を高める。 ・登場人物の心情や場面背景を理解し、物語文学の面白さを味わう。	教科書 Ｐ１１９～ Ｐ１３２	確認テスト４	○	○	○	○
第三学期	漢文：「中国の思想」 ○確認テスト１	1	○中国の思想 諸子百家の代表的な思想を学び、現代日本との関わりを知り、現代日本への理解を深める。	教科書 Ｐ２４３～ Ｐ２５２	確認テスト１	○	○	○	○

教科	地歴	科目	世界史Ｂ	学年	３Ａ	単位数	３
使用教材	教科書：詳細　改訂版　世界史Ｂ（山川出版） 資料集：グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）						
授業内容	歴史の流れを捉えつつ、地域史の理解を深めていく。細部にわたる知識を活用した言語活動重視の授業を行う。授業ごとに設定する「問い」への答えを各自で出すことができるようにする。						
到達目標	世界史の知識を定着させた上で論理的思考力を育成していく。						
評価方法	以下の観点で各学期評価する。 平常点…授業での積極性　　課題提出 予習の段階での内容理解度 テスト…単元ごとの課題テスト、全国模試 自己評価（ルーブリック評価）						
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1学期	4月 5月 6月 7月	第５章　ヨーロッパ世界の形成と発展 中世の特徴を理解する 第６章　内陸アジア・東アジア世界 ユーラシアの全容を理解する 第７章　アジア諸地域の繁栄 前近代のアジアの特徴を地域ごとに理解する 第８章　近世ヨーロッパの形成 絶対王政期の大西洋地域を理解する 第９章　近世ヨーロッパの展開 経済の発展による世界全容の変化を理解する 第 10 章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 大西洋革命からウィーン体制までの動向を理解する	6 6 6 6	テスト　70% 平常点　20% 自己評価　10%
2学期	8月 9月 10月 11月 12月	第 11 章　近代国家の発展 ウィーン体制以降の近代国家の特徴を理解する 第 12 章　アジア諸地域の動揺 アジアの帝国の崩壊の背景を理解する 第 13 章　帝国主語とアジアの民族運動 世界分割をアジアの目線で考察する。 第 14 章　二つの世界大戦 背景と戦間期について理解し、半世紀にわたる世界大戦について理解する。		随時　小テスト テスト　70% 平常点　20% 自己評価　10%
3学期	1月 2月 3月	共通テスト対策		テスト　100%
			８８	

時間別授業計画・評価方法　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	D
1学期	第５章	4	中世ヨーロッパの代表的な出来事から時代の特徴を考察する。	①予習事項の確認から授業を展開 ②資料集	p120~150	○	○		
	第６章		内陸、東アジアに出現する国家の特徴を地球全体の動きを把握しつつ理解する。		p154~174	○	○		○
	第７章	5	内陸、東アジアの国家の発展を内部と外部の両視点から考察する。		p178～197	○	○	○	
	第８章	6	近世ヨーロッパの主権国家体制について現代との繋がりを理解する。		P201~213	○			○
	第９章		絶対王政期のヨーロッパの文化思想を中心に転換期となった背景を考察する。		P223~236	○	○		
	第１０章	7	大西洋革命の相互関係と後世への影響について理解する。		P241~248	○		○	○
2学期	第１１章	8 9	ウィーン体制下の崩壊から帝国主義までの各国の動きを理解する。		P256~278	○		○	○
	第１２章	１０	オスマン帝国、清朝の崩壊を内部と外部の両視点から考察する。		P283~295	○	○		
	第１３章	１１	帝国主義時代の世界分割を現代と関連づけて考察する。		P308~321	○	○		
	第１４章	１２	二度の世界大戦の背景と、戦間期の各国の国内政治について考察する。		p331~363	○	○	○	○
3学期		1 2 3	問題演習						○

教科	地歴	科目	地理Ｂ	学年	３Ａ	単位数	３
使用教材	教科書：新詳地理Ｂ（帝国書院） 副教材：新詳高等地図（帝国書院）						
授業内容	地誌分野の基本的事項を理解した上での問題演習を行う。資料からの情報収集力、判断力、地理学への関心を高めていく。						
到達目標	知識を定着させた上で、共通テストで６割を目標とする。						
評価方法	以下の観点で各学期評価する。 テスト…各学期は全国模試の得点＋再テストの得点 ３学期は共通テストの得点						
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1学期	4月 5月 6月 7月	第Ⅱ部３章　人口、村落・都市 村落と都市　　都市居住問題　　テスト① 模試対策（過去問使用） マーク模試受験 模試の解き直し ４章　　生活文化、民族・宗教 世界の衣食住　　民族と宗教　　現代世界の国家 民族・領土問題　　テスト② 問題演習　系統地理的考察	7 4 6 １０	テスト　　60% 再テスト　40% テスト　　60% 再テスト　40%
2学期	8月 9月 10月 11月 12月	模試対策（過去問使用） マーク模試受験 模試の解き直し 模試対策（過去問使用） マーク模試受験 模試の解き直し 問題演習　地誌的考察	２０ 6 １１ ２０	模試の結果 70% 再テスト 30% 模試の結果 70% 再テスト 30%
3学期	1月 2月 3月	共通テスト受験	4	入試　　100%
			８８	

時間別授業計画・評価方法　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施計画	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	D
1学期	３章　人口、村落・都市	4	人口分布と集落の成り立ち、居住問題をについて代表的な例を資料に考察する。		P168~200	○	○	○	○
	マーク模試 解き直し	5	自分の得意不得意をつかみ、実践的に地域と活用する知識を身に付ける。				○		○
	４章　生活文化、民族・宗教	6	衣食住の変遷と宗教、民族の諸課題について考察する。		P201~226	○	○	○	○
	第１章・２章　現代の諸地域 系統地理的考察の問題演習	7	各地域の地誌を理解する。		P232~322		○		○
2学期	地誌的考察の問題演習	8	問題の読み解き方や有効な情報を判断する練習を行う				○		○
	マーク模試 解き直し	9 １０	自分の得意不得意をつかみ、実践的に地域と活用する知識を身に付ける。				○		○
	マーク模試 解き直し	１１ １２	自分の得意不得意をつかみ、実践的に地域と活用する知識を身に付ける。				○		○
3学期									○

教科	社会科	科目	現代社会	学年	3A	単位数	2
使用教材	教科書：現代社会（東京書籍）						
授業内容	・現代における社会の仕組みを理解する。 ・現代の諸課題への解決に向けて、多角的目線で自らの考えを持つ。 ・諸資料を活用し、論理的に自らの考えを表現する。 ・単元ごとに確認テスト、演習問題、復習小テストを行う。						
到達目標	・現代における社会の仕組みを理解できる。 ・現代の諸課題への解決に向けて、多角的目線で自らの考えを持つことができる。 ・自らの考えの根拠となるものを、諸資料を活用することができる。						
評価方法	以下の観点で各学期評価する。 平常点…授業内での取り組み、課題の提出状況 テスト…単元テスト レポート…単元または学期ごとにレポートを作成する。 a(関心・意欲・態度)　…授業内での取り組み、課題の提出状況 b(思考・判断・表現)　…レポート、R80、授業内での取り組み c(資料活用の技能)　…授業内での取り組み、レポート d(知識・理解)　…テスト、R80、授業内での取り組み						
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1学期	4月	オリエンテーション　評価とレポートについて	1	
		4　現代政治の特質と課題　問題演習	3	
		現代政治の特質と課題について考察する。		テスト　60%
		レポート（第３部ともに生きる社会をめざして）		平常点　20%
	5月	1　経済のしくみ	9	レポート 20%
	6月	経済の基本的なしくみを理解し、課題について考察する。		
		単元テスト１		
	6月	2　変化する日本経済		
	7月	戦後の日本経済の変化について理解する。　単元テスト２	6	
2学期	8月	3　豊かな生活の実現	6	テスト　60%
	9月	私たちの生活に関わる問題について考察する。単元テスト３		平常点　20%
		レポート（経済分野）		レポート 20%
	9月	1　国際政治のしくみと動向	7	
	10月	国際社会への変遷を理解し、国際連合について考察する。		
		単元テスト４		
	11月	2　国際経済のしくみと動向	6	
		貿易を通して、国際経済の特色について考察する。		
		単元テスト５		
	12月	3　国際社会の現状と課題	7	
		現在の国際社会の現状と課題についてどのようにすればよ		

		いか主体的に考察する。　　単元テスト６ 大学入学共通テスト対策・演習	３	
３学期	**１月** **２月** **３月**	大学入学共通テスト対策・演習	５	共通テスト 得点率　８０％ 平常点　２０％
			５３	

時間別授業計画・評価方法　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1学期	現代政治の特質と課題	4	日本の選挙制度の仕組みについて理解し，選挙制度をめぐる課題について考察する。 民主政治における現状と課題について考察する。 世論の意義を理解し，世論とメディアとの関係，大衆化した社会における政治意識などについて考察する。			○	○	○	○
	経済のしくみ	5 6	資本主義経済の成立にあたっての理論について理解する。 企業の役割，株式会社の特色，国際化に伴う変化，企業の社会的責任について理解する。 市場の仕組みについて理解します。また，市場の失敗について考察する。 GDP や国富などについて理解し，経済成長の意味や景気の変動を捉える。 直接金融，間接金融，通貨制度，信用創造について理解する。 中央銀行の働きについて理解し，金融の自由化，国際化の動きや背景について考察する。 政府の経済的な活動について理解すると同時に，財政制度，租税と公債，財政問題について考察する。		P 110 ～129	○	○	○	○
	変化する日本経済	6 7	第二次世界大戦後の経済復興にかかわる諸改革について理解する。 高度経済成長以降の石油危機や産業構造の変化，バブル経済について理解する。 失われた 10 年の日本経済，構造改革の特徴とそれがもたらした様々な問題について理解する。また，日本経済の現状と課題について考察する。 中小企業の現状と経済や産業に占める役割，農業の現状と農業に関する諸政策について理解し，諸課題について考察する。		P130 ～139	○	○	○	○
2学期	豊かな生活の実現	8 9	消費者の自立に向けた取り組みについて考察する。 労働に関する法制を理解する。 労働や雇用に関わる様々な課題について考察する。 少子高齢社会における社会保障制度の在り方について考察する。 高度経済成長とともに引き起こされた日本の公害問題について理解し，今後における持続可能な社会，循環型社会について考察する。		P140 ～153	○	○	○	○
	国際政治のしくみと動向	9 1 0	国家間の諸問題と外交，国際法の意義と国際法の種類などについて理解する。 国際紛争を避ける仕組みとして国際連合の設立と仕組みについて理解する。 国連の安全保障への取り組みの現状と課題について考察する。 国連による人権の国際的保障の取り組みについて		P154 ～165	○	○	○	○

			理解し，国際連合の課題について考察する。 冷戦終結後の紛争と対立などについて理解する。 軍縮に伴う課題について考察する。						
	国際経済のしくみと動向	1 1	貿易の意義，と国際分業の実態について理解する。 外国為替の仕組み，為替レートの変動要因と影響，国際収支の仕組みについて理解する。 IMF-GATT体制成立の背景やその仕組み，危機と崩壊について理解する。 国や地域間の貿易や経済の連携や協定について理解する。 世界経済の安定化に向けた課題について考察する。		P 166 ～177	○	○	○	○
	国際社会の現状と課題	1 2	ヨーロッパやアメリカアジア太平洋地域における地域統合の進展について考察する。 ロシアや中国の経済の動きから多様化する世界経済について理解する。 南北問題や地域紛争、国境を越えて広がる地球規模の課題について諸資料から考察する。 国際社会における日本の役割について考察する。		P178 ～192	○	○	○	○
3 学 期	**大学入学共通テスト対策・演習**	1 2 1	自学を中心としながら、共通テストに向けた演習を行う。			○			○

教科	数学	科目	数学発展Ⅱ	学年	3	単位数	5
使用教材	教科書：高等学校数学Ⅰ（数研出版）・高等学校数学A（数研出版） 副教材：4STEP 数学Ⅰ+A（数研出版） チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A（数研出版）						
授業内容	数学ⅠA、問題演習						
到達目標	基礎基本の定着。共通テストに対応できる力を身につける。						
評価方法	以下の観点で各学期評価する。 筆記テスト【確認テスト・単元テスト】（80%） 平常点【授業態度、課題、提出物】（20%） 関心・意欲・態度…授業態度、課題、提出物 数学的な見方や考え方…確認テスト・単元テスト 数学的な技能…確認テスト・単元テスト 知識・理解…確認テスト・単元テスト						
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1学期	4月	オリエンテーション	1	単元テスト5回 課題、提出物
		数学Ⅰ　数と式	5	
	5月	単元テスト①	1	
		数学Ⅰ　集合と命題	10	
		単元テスト②	1	
	6月	数学Ⅰ　2次関数	12	
		単元テスト③	1	
		数学Ⅰ　図形と計量	12	
		単元テスト④	1	
	7月	数学Ⅰ　データの分析	12	
		単元テスト⑤	1	
2学期	8月	数学A　場合の数と確率	12	単元テスト3回 課題、提出物
		単元テスト⑥	1	
	9月	数学A　整数の性質	12	
		単元テスト⑦	1	
	10月	大学入学共通試験演習	40	
	11月	⇓		
	12月	⇓		
3学期	1月	大学入学共通試験演習	10	共通試験 課題、提出物

時間別授業計画・評価方法　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施計画	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用　等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1学期	オリエンテーション (1) 数学Ⅰ　第１章 数と式　(5) 単元テスト　(1)	4月	共通テストレベルの問題に対応できる力を身につける。			○	○	○	○
	数学Ⅰ　第２章 集合と命題　(10) 単元テスト　(1)	5月	共通テストレベルの問題に対応できる力を身につける。			○	○	○	○
	数学Ⅰ　第３章 ２次関数　(12) 単元テスト　(1)		共通テストレベルの問題に対応できる力を身につける。			○	○	○	○
	数学Ⅰ　第４章 図形と計量　(12) 単元テスト　(1)	6月	共通テストレベルの問題に対応できる力を身につける。			○	○	○	○
	数学Ⅰ　第５章 データの分析　(12) 単元テスト　(1)	7月	共通テストレベルの問題に対応できる力を身につける。			○	○	○	○
2学期	数学Ａ　第１章 場合の数と確率　(12) 単元テスト　(1)	8月	共通テストレベルの問題に対応できる力を身につける。			○	○	○	○
	数学Ａ　第３章 整数の性質　(12) 単元テスト　(1)	9月	共通テストレベルの問題に対応できる力を身につける。			○	○	○	○
	共通テスト演習　(40)	10月～	共通テストレベルの問題に対応できる力を身につける。			○	○	○	○
3学期	共通テスト演習　(15)	1月	共通テストレベルの問題に対応できる力を身につける。			○	○	○	○

教科	理科	科目	化学	学年	3A	単位数	3
使用教材	教科書：改訂版　化学（数研出版） 副教材：リード Light ノート　化学 大学入試共通テスト対策問題集						
授業内容	有機化合物と高分子化合物の分野を学習する。どちらも身近な生活や科学技術の進歩にかかわる分野であり、幅広く学習することで興味・関心を高める。また、問題演習を通して理解を深める。						
到達目標	物質をよく知ることにより、現代社会との関わりを認識し、現代社会をより広い視野で捉えることができるようになること。						
評価方法	以下の観点で各学期評価する。 確認テスト(80%)　平常点(課題・授業の取組状況)(20%) 関心・意欲・態度……授業への取組・課題提出 科学的な見方や考え方…確認テスト 知識・理解……確認テスト						
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1 学期	4 月 5 月 6 月 7 月	有機化合物 特徴・分類・分析 脂肪族炭化水素 アルコール類 芳香族化合物	31	各授業の取り組み 課題への取り組み 確認テスト
2 学期	8 月 9 月 10 月 11 月 12 月	高分子化合物 構造・性質 天然高分子 合成高分子 大学入試共通テスト演習 （またはレポート作成）	45	各授業の取り組み 課題への取り組み 確認テスト 各授業の取り組み 課題への取り組み
3 学期	1 月	大学入試共通テスト演習 （またはレポート作成）	7	各授業の取り組み 課題への取り組み
			83	

時間別授業計画・評価方法　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	授業計画	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考査範囲	評価の観点のポイント a	b	c	d
第1学期	**4編　有機化合物**								
	1章　有機化合物の分類と分析	4	有機化合物の分類と官能基の名称を確認する。構造式での有機化合物の表し方と元素分析の方法および計算方法を理解する。	プリント 演習問題	確認テスト	○	○	○	○
	2章　脂肪族炭化水素		アルカン・アルケン・アルキンの基本構造とその性質・反応経路を理解する。構造異性体について問題を通して解答までの道筋が考えられるにする。	プリント 演習問題		○	○	○	○
	3章アルコールと関連化合物	5	アルコール・アルデヒド・ケトン・カルボン酸・エステルの基本構造、性質および反応経路を理解する。それぞれの有機化合物について代表的な物質にはなにがあるのかとその性質にはどのようなものがあるのかを問題を通して理解する。	プリント 演習問題	確認テスト	○	○	○	○
	4章　芳香族化合物	6	芳香族化合物の基本構造・性質を理解する。代表的な芳香族（フェノール、カルボン酸・アミン等）についてその性質と反応経路を理解する。物質の構造式および反応式を書くことができる。 芳香族化合物の液性を理解し、有機化合物を分離する方法について理解することができる。	プリント 演習問題	確認テスト	○	○	○	○
	有機化合物問題演習	7	第 4 編での学習内容を整理し理解し直す。理解できていない内容を明確にし、家庭学習に結びつける。	問題演習		○	○	○	○
2学期	**5編　高分子化合物**								
	1章　高分子化合物の性質	8	高分子化合物について、組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解し、化学的な理解を深める。	プリント 演習問題		○	○	○	○
	2章　天然高分子化合物	9	生体を構成する糖・タンパク質・アミノ酸の化学的な構造と性質について理解する。	プリント 演習問題	確認テスト	○	○	○	○
	3章　合成高分子化合物	10	合成高分子化合物が生活の様々なところで利用されていることを理解する。 合成高分子化合物の組成や構造と特性との関連をを理解し，化学的な理解を深める。	プリント 演習問題	確認テスト	○	○	○	○
	大学入試共通テスト演習（またはレポート作成）	11 12	大学入試共通テスト形式の問題演習 各自、過去問・苦手分野の演習 （現代社会と化学にかかわるレポート作成）			○	○	○	○
3学期	大学入試共通テスト演習（またはレポート作成）	12 1	大学入試共通テスト形式の問題演習 （現代社会と化学にかかわるレポート作成）			○	○	○	○

教科	理科	科目	生物	学年	3A	単位数	3
使用教材	改訂版 生物（数研出版）　　三訂版 リード Light ノート 生物（数研出版）						
授業内容	副教材を用いて、予習を行う。授業内では ICT ツールを用いて、生物の概念を理解する。						
到達目標	生物事象を広範囲に扱い、生物学的な概念などの理解を深める。日常生活の生物的事象に対して、生物の知識を用いて、説明することができる。						
評価方法	以下の観点で各学期評価する。 ①課題(20%)、②章末テスト(60%)、③平常点(20%) 意欲や態度…授業への取り組み、課題の取り組み 知識の定着…章末テスト　　科学的表現…授業内での発言内容						
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1 学期	4 月	第 2 編　生殖と発生	12	
		第 4 章　生殖と発生		
		1.遺伝子と染色体　2.減数分裂と遺伝情報の分配		
		3.遺伝子の多様な組み合わせ　4.動物の配偶子形成と受精		
	5 月	5.初期発生の過程　6.細胞の分化と形態形成		
		7.植物の配偶子形成と発生		
		第 3 編　生物の環境応答		①②
		第 5 章　動物の反応と行動	9	
	6 月	1.ニューロンとその興奮　2.刺激の受容　3.情報の統合		
		4.刺激への反応　5.動物の行動		①②
		第 6 章　植物の環境応答		
	7 月	1.植物の生活と環境応答　2.発芽の調節　3.成長の調節		
		4.環境の変化に対する応答　5.花芽形成・結実の調節	9	①②
2 学期	8 月	第 4 編　生態と環境		
		第 7 章　生物群集と生態系	9	
		1.個体群　2.個体群内の個体間の関係		
	9 月	3.異種個体群間の関係　4.生物群集		
		5.生態系における物質生産　6.生態系と生物多様性		①②
		第 5 編　生物の進化と系統		
		第 8 章　生命の起源と進化	6	
	10 月	1.生命の起源と初期の生物の変遷　2.多細胞生物の変遷		
		3.進化のしくみ		①②
		第 9 章　生物の系統	3	
		1.生物の系統　2.生物の多様性		①②
	11 月	共通テスト演習	33	
	12 月	共通テスト演習		①②
3 学期	1 月	共通テスト演習	9	①②
			90	

時間別授業計画・評価方法　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用　等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	D
1学期	第2編　生殖と発生 第4章　生殖と発生	4 5	染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで、有性生殖では、減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。次に、動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程を学習する。また、細胞の分化や形態形成のしくみについて、誘導現象を中心に理解する。前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について学習する。植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解させる。	②p66～71 ②p82～89		○	○	○	○
	章末テスト		定着した知識を表現することができることを確認する。また、テスト直しを通し、知識の定着を図る。	②p66～79 ②p82～99			○	○	○
	第3編　生物の環境応答 第5章　動物の反応と行動	6	まず、ニューロン(神経細胞)の基本的な構造とそのはたらきを理解する。次に、受容器で受け取られた刺激(情報)が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。その際、刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に取り上げ、効果器に関しては筋肉を中心に取り上げる。動物の行動については、神経系における情報の流れと関連づけながら扱う。	②p102～108		○	○	○	○
	章末テスト		定着した知識を表現することができることを確認する。また、テスト直しを通し、知識の定着を図る。	②p102～119			○	○	○
	第6章　植物の環境応答	7	植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する。そのうえで、環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。	②p122～127		○	○	○	○
	章末テスト		定着した知識を表現することができることを確認する。また、テスト直しを通し、知識の定着を図る。	②p122～133			○	○	○
2学期	第4編　生態と環境 第7章　生物群集と生態系	8 9	個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。その際、生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。次に、生態系における物質生産について学習する。その際、いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について学習する。さらに、生物多様性の重要性を認識する。	②p136～144		○	○	○	○
	章末テスト		定着した知識を表現することができることを確認する。また、テスト直しを通し、知識の定着を図る。	②p136～153			○	○	○
	第5編　生物の進化と系統 第8章　生命の起源と進化	10.	生命の起源および生物の変遷を学習する。その際、生命の誕生や生物の変遷は、地球環境の変化と密接に関係していることを理解する。生物の進化については、そのしくみを学習する。そのうえで、分子進化の概念や種分化のしくみについても学習する。	②p156～161		○	○	○	○
	章末テスト		定着した知識を表現することができることを確認する。また、テスト直しを通し、知識の定着を図る。	②p156～169			○	○	○
	第9章　生物の系統		生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解する。その際、形態的な特徴などにもとづいた分類ばかりでなく。近年では、	②p172～175		○	○	○	○

			DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについて扱う。個々の分類群については、その概要を学習する。						
	章末テスト		定着した知識を表現することができることを確認する。また、テスト直しを通し、知識の定着を図る。	②p172～181			○	○	○
	共通テスト演習	11. 12.	共通テスト演習を通じて、共通テストの時間感覚を養う。				○	○	○
3学期	共通テスト演習	1	共通テスト演習を通じて、傾向を予測し、それに伴う対策を練る。また、重視すべき点を再度総ざらいする。				○	○	○

教科	理科	科目	理科発展（化学基礎）	学年	3A	単位数	1.5
使用教材	教科書：高等学校　化学基礎（数研出版） 問題集：リード Light ノート　化学基礎						
授業内容	必要に応じて単元の学習事項を復習しながら、問題集、模試の過去問、大学入試共通テスト対応問題集等を用い、演習を行う。						
到達目標	大学入学共通テスト　５割。						
評価方法	以下の観点で各学期評価する。 確認テスト(40%)　課題提出とその取り組み(40%)　平常点(授業の取組状況)(20%) 関心・意欲・態度……授業への取組・課題 科学的な見方や考え方…確認テスト・提出物の内容 知識・理解……確認テスト						
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1学期	4月 ～ 6月 7月	酸と塩基 中和反応・塩・pH など 酸化還元反 酸化還元・酸化剤、還元剤など 電池・電気分解 模擬試験形式問題演習	15	各授業の取り組み 課題への取り組み 確認テスト結果
2学期	8月 ～ 12月	模擬試験形式問題演習並びに弱点分野の復習	22	各授業の取り組み 課題への取り組み 確認テスト結果
3学期	12月 ～ 1月	大学入試共通テスト演習 大学入試共通テスト	5	各授業の取り組み 課題への取り組み 大学入試共通テスト結果
			42	

時間別授業計画・評価方法　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	授業計画	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	D
第1学期	酸と塩基　（6） 中和反応・塩・pH など 酸化還元反応（6） 酸化還元・酸化剤、還元剤 電池・電気分解 模擬試験形式問題演習（3）	4 5 6 7	問題演習を通して、復習を行い、基本用語の定義、中和反応の成り立ちと量的関係、塩の性質、ｐＨの定義を理解する。 問題演習を通して、主に電子ｅ$^-$の授受で酸化還元を理解する。 電池の仕組み、元気分解の仕組みを酸化還元反応で説明できる。 問題のポイント捉え、教科書等で調べながらでも解くことができる。	問題集 模擬試験過去問	確認テスト	○	○	○	○
2学期	模擬試験形式問題演習（2） 単元別復習（１４） 大学入試共通テスト演習（6）	8 9 10 11 12	大学入試共通テスト形式の問題に対して根拠をもって解答にたどり着くことができる。 大学入試共通テストに向けた演習 苦手分野を各自問題集や教科書を用いて理解できるよう取り組むことができる。 大学入試共通テスト演習 各自、過去問演習・苦手分野の演習	模擬試験過去問プリント 模擬試験過去問プリント	確認テスト 12月プレ模試	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
3学期	大学入試共通テスト演習（5）	12 1	大学入試共通テスト演習		大学入試共通テスト	○	○	○	○

教科	理　科	科目	理科発展Ⅱ(生物基礎)	学年	３A	単位数	３(1/2)
使用教材	大学入試センター試験対策　チェック＆演習　生物基礎 センター試験直前演習　生物基礎						
授業内容	大学入試センター試験に向けた演習を中心に行う。また、各月に予定されている外部模試への対策にも取り組む。						
到達目標	各模試においては偏差値５５以上、センター試験では８０％以上の得点を目標とする。						
評価方法	〈評価の対象となる試験〉 　単元毎テスト、外部模試、センター試験 〈授業内での活動〉 　授業への取り組みの姿勢、提出物等						
その他	アクティブラーニング型の授業により、確実な知識の定着と考察力・応用力を身につける。						

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1学期	4月	体内環境の恒常性	3	
	5月	体内環境の調節・免疫		◎
	6月	※ 総合学力マーク模試	6	○
		植生の多様性と分布	6	◎
	7月	※ 総合学力記述模試	3	○
2学期	8月	生物の多様性と生態系	2	
	9月	生物の多様性と生態系	6	◎
		※ ベネッセ・駿台マーク模試		○
	10月	センター試験直前演習	6	◎
		※ ベネッセ・駿台記述模試		○
	11月	センター試験直前演習	6	◎
		※ ベネッセ・駿台マーク模試		○
	12月	センター試験直前演習	2	◎
3学期	1月	センター試験直前演習	2	○
		※ センター試験		
			４２	

評価の◎は、授業内テスト。○は、校外模試。評価は、それぞれのテストと授業への取り組み、提出物等を総合的に行う。

時間別授業計画・評価方法　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1学期	体内環境の恒常性 体内環境の調節・免疫 ※ 総合学力マーク模試 植生の多様性と分布 ※ 総合学力記述模試	4 5 6 7	既習事項の確認と知識の定着を図る。 模試を通して自分の実力を　把握し、弱点の補強を行う。 模試毎の対策を行う。	数研出版 「チェック＆ 演習生物基礎」		○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○
2学期	生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系 ※ ベネッセ・駿台マーク模試 ※センター試験直前演習 ※ ベネッセ・駿台記述 ※ ベネッセ・駿台マーク センター試験直前演習 （計１０回）	8 9 10 11 12	既習事項の確認と知識の定着を図る。 模試を通して自分の実力を　把握し、弱点の補強を行う。 模試毎の対策を行う。			○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○
3学期	※ センター試験	1	８割以上の得点を目指す			○	○		○

教科	保健体育	科目	体　　育	学年	３Ｓ	単位数	３
使用教材	体育用具						
授業内容	実技						
到達目標	各種の基本動作を習得し、基本体力の向上をはかる。また、安全と事故防止に注意し、互いに協力し合って練習・競技・ゲームができるようにする。自分の健康･体力に関心を持ち進んで運動する習慣を養い、生涯にわたって運動に親しむ基礎をつくる。						
評価方法	１．授業に積極的に参加し各種目の特性に関心を持ち取り組んでいるか。 ２．自分の能力に応じた目標や課題を持ち行っているか。 ３．グループ練習やゲームで仲間と共に課題を持ち練習しているか。 ４．パスなどの基本的な動作をスムーズに行うことができるか。 ５．各種目の特性、ルールを理解しているか。						
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1学期	4月 5月 6月 7月	・オリエンテーション、整列 ・柔軟、補強運動 ・スポーツテスト ・柔道（受け身、固め技） ・陸上競技 短距離走　走り高跳び (基礎練習、記録測定) ・選択種目（屋外） サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グランドゴルフ	3 5 8 8 6	実技テスト
2学期	8・9月 10月 11月 12月	・柔軟、補強運動 ・バレーボール 基礎練習（パス、サーブ、スパイク） ゲーム ・選択種目（屋外） サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グランドゴルフ ・バスケットボール 基礎練習（パス、ドリブル、シュート)、ゲーム ・選択種目（屋内） フットサル　バスケットボール　バドミントン　卓球	2 １２ １０ １２ 8	実技テスト
3学期	1月	・選択種目（屋内） フットサル　バスケットボール　バドミントン　卓球	１０	
			８４	

実施状況及び評価方法　等　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用　等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	D
第1学期	**総授業時間　[30]**								
	柔軟・補強運動　〔3〕	4							
	スポーツテスト　〔5〕								
	1　記録用紙の記入 長座体前屈 立ち幅跳び　(1)					○		○	
	2　反復横跳び 上体起こし　(1)					○		○	
	3　握力・背筋力　(1)					○		○	
	4　シャトルラン　(1)					○		○	
	5　ハンドボール投げ　(1)	5				○		○	
	柔道　〔8〕								
	1　受け身　(4)		礼儀正しい態度で関心をもって学習に臨み、基本動作を習得し、安全に取り組めるようにする。			○	○	○	○
	2　固め技　(4)		固め技の定義を理解させ、上四方固め・横四方固め・縦四方固め・けさ固めを習得する。			○	○	○	○
	陸上競技　〔8〕								
	1　短距離走　(4)	6	30m・50m・70m・100mと距離を徐々伸ばしていき、スタートダッシュ・腕振り・足の上げ方を分けて理解できるようにする。スタートブロックを使い自分に合った歩幅でクラウチングスタートを習得する。 距離毎に記録を測定し、目標設定記録に挑戦する。			○	○	○	○
	2　走り高跳び　(3)		背面跳びの習得を目指し、空中姿勢・踏切・助走と分解練習を行う。 グループ毎にサーキット方式で練習を行い、お互いにフォームや踏切のタイミングを指摘し合いながら、より質の高い跳躍を目指す。 タブレットで跳躍の様子を撮影し、自らのフォームを客観的に見ることで、次回の改善に活かせるようにする。			○	○	○	○
	記録会　(1)	7	80cm から 5cm ずつ上げていき、目標設定記録に挑戦する。			○	○	○	○
	選択種目　〔6〕		サッカー・ソフトテニス・ソフトボール・グランドゴルフ			○	○	○	○
第2学期	**総授業時間　[44]**								
	柔軟・補強運動　〔2〕								
	1　１０分間走　(2)	8	長期休業中に運動をしていなかった生徒も多いので、急な運動で怪我などをしないように、徐々に慣らしていく。			○		○	
	バレーボール　〔12〕								
	1　アンダーハンド オーバーハンドの基礎　(2)	9	ゲームで活かせるように、アンダーハンド・オーバーハンドの基礎を習得する。また、苦手生徒には経験者が教え、全員の目標達成を目指す。			○	○	○	○

	2　スパイク サーブの基礎　(2)	10	３段攻撃がゲームで出来るように、サーブからのレシーブ→トス→スパイクの流れを全員が習得できるようにする。			○	○	○	○
	3　チーム練習 ゲーム　(7)		基礎練習で習得したことを活かし、ゲームを出来るようにする。 ゲームで出た課題を次回の授業でチーム毎に練習し、改善できるようにする。			○	○	○	○
	4　アンダーハンド オーバーハンドのテスト　(1)		単元のまとめとして基礎スキルの習得を確認する。直上パスを何秒間出来るかを測定する。			○	○	○	○
	選択種目　〔10〕		サッカー・ソフトテニス・ソフトボール・グランドゴルフ			○	○	○	○
	バスケットボール〔12〕								
	1　ゴール下シュート レイアップシュートの基礎練習　(2)	11	テスト項目でありゲームで一番の得点源である、シュート練習を通し、ゲームで活かせる技術を身につける。			○		○	
	2　チーム練習 ゲーム　(9)		基礎練習で習得したことを活かし、ゲームを出来るようにする。 ゲームで出た課題を次回の授業でチーム毎に練習し、改善できるようにする。			○	○	○	○
	3　ゴール下・レイアップのテスト(1)	12	単元のまとめとして基礎スキルの習得を確認する。20 秒ゴール下シュートとレイアップシュート（左右）			○	○	○	○
	選択種目　〔8〕		サッカー・ソフトテニス・ソフトボール・グランドゴルフ			○	○	○	○
第３学期	**総授業時間　[10]**								
	選択種目　〔10〕	1	フットサル・バスケットボール・バドミントン・卓球			○	○	○	○

教科	英語	科目	コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅱ	学年	3	単位数	3 2
使用教材		PROMINENCE English Communication Ⅲ（東京書籍） New Favorite English Expression Ⅱ（東京書籍） まるまるリスニング標準（三省堂） シスタン Basic（駿台文庫） ヒビスピ（アルク） ユメリス 2（アルク） Evergreen（いいずな書店）					
授業内容		様々なテーマに触れ、論理的思考力を養いながら表現力を伸ばす。					
到達目標		様々なタスクをこなしていく中で、読む、聞く、書く、話す、論理的に考える力をバランスよく身につける。					
評価方法		テスト（６０） その他（４０）Performance（発表・小テスト・英作文など）					
その他							

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1 学期	4 月 ～7 月	オリエンテーション ヒビスピ（3 unit / 1 週） シスタン（100 単語/1 週） まるまるリスニング標準（1 Lesson / 2~3 週）	44	筆記テスト スピーキングテスト
2 学期	8 月 ～12 月	ヒビスピ（3 unit / 1 週） シスタン（100 単語/1 週） まるまるリスニング標準（1 Lesson / 2~3 週）	68	筆記テスト スピーキングテスト
3 学期	1 月 ～3 月	ヒビスピ（3 unit / 1 週） シスタン（100 単語/1 週） まるまるリスニング標準（1 Lesson / 2~3 週）	28	筆記テスト スピーキングテスト
			140	

時間別授業計画・評価方法　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用　等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1学期	オリエンテーション ヒビスピ	4 5 6 7	英語を話すにしても書くにしても、単語と文法だけではやっていけない。様々な表現を知って初めて自分が伝えたい想いを完璧に近い形で伝えることができる。このテキストを通して、多くの表現方法を知って表現の幅を増やしていく。 Unit 13 Without を用いた仮定法 Unit 14 wish を用いた仮定法 Unit 15 比較 rather than ~ Unit 16 so that 構文 Unit 17 結果を求める so that Unit 18 too to 構文 Unit 20 enough 名詞、形容詞 enough Unit 21 使役動詞 help Unit 23 not A but B Unit 27 no matter 疑問詞 Unit 28 ~せずにはいられない Unit 30 ～したはずだ （＋1 年次に既習済の Unit 復習）		○	○	○	○	○
	まるリス標準		ある程度の語彙と文法が身についた時点で、短いパッセージを使いながら「聞く」「話す」「読む」の能力を高めていく。脈絡のない 1 文のトレーニングとは違い、文章を使ってトレーニングすることは、読解力なども必要となってくるので、総合的な力を伸ばす授業を展開したい。 Training 1~7		○	○	○	○	○
2学期	ヒビスピ	8	総復習		○	○	○	○	○
	まるリス標準	9 １０ １１ １２	Training 8~14		○	○	○	○	○
3学期	ヒビスピ	1	総復習		○	○	○	○	○
	ユメリス 2	2 3	Unit 1~10		○	○	○	○	○

教科	情報	科目	情報の科学	学年	3	単位数	2
使用教材	新・情報の科学（日文）						
授業内容	情報の収集・処理・発信について学ぶ						
到達目標	・収集した情報を取捨選択できる ・目的に応じて適切な情報処理ができる ・状況や対象に応じた方法を選択して情報を発信できる						
評価方法	関心・意欲・態度・・・提出物・発展課題（20%） 思考・判断・・・課題提出・試験 技能・表現・・・課題提出・試験 } （80%） 知識・理解・・・課題提出・試験						
その他	発展課題の提出によって加点する						

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価
1学期	4月	・情報とは何か	4	・口頭試験 ・課題提出
	5月	・情報モラル	3	
		・コンピュータの操作	3	
	6月	・ワードプロセッサー	4	
		・表計算ソフトウェア	3	
	7月	・プレゼンテーションソフトウェア	4	
2学期	8月	・アナログとディジタル	3	・口頭試験 ・課題提出
	9月	・進数	3	
		・ディジタル表現	5	
	10月	・ハードウェアとソフトウェア	3	
	11月	・ネットワークとインターネット	6	
	12月	・アルゴリズムとプログラミング	8	
		・データベース	3	
3学期	1月	・情報と表現	4	・口頭試験 ・課題提出
			56	

時間別授業計画・評価方法　※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用　等	考査範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1	情報とは何か(4) ①授業の進め方 パスワード管理 ②コンピュータの使い方 ③ファイルと拡張子 フォルダとパス ④情報の価値 情報の発信	4	・授業の進め方と実習教室の使い方を理解する ・「情報」とは何かを理解する	①提出物のほか、必要に応じて口頭試問を行う。 ②必要に応じて学習プリントを配布する。	学習プリント	○	○	○	○
1	情報モラル(3) ①インターネット ②著作権 ③事例分析	5	・情報モラルについて理解する			○	○	○	○
1	コンピュータの操作(3) ①キーボードとマウスの操作 ②ピクトグラム制作 ③まとめ・印刷	5	・コンピュータの基本的な操作を習得する			○		○	○
1	ワードプロセッサー(4) ①キーボード操作 ②ページとフォント ③段落と行間 ④表と画像	6	・ワードプロセッサーの利用方法を理解する	①提出物で評価を行う。 ②問題集		○	○	○	○
1	表計算ソフトウェア(4) ①セルとシート フォント ②計算と関数 ③グラフの作成 ④配置と印刷	6	・表計算ソフトウェアの利用方法を理解する			○	○		○
1	プレゼンテーションソフトウェア(4) ①テーマとスライド ②効果と切り替え ③課題作成 ④保存と印刷	7	・プレゼンテーションソフトウェアについて理解する			○	○		○
2	アナログとディジタル(2) ①比較 ②相互変換 ③まとめ	8	・アナログとディジタルの特性を理解する	①提出物のほか、必要に応じて口頭試問を行う。 ②必要に応じて学習プリントを配布する。		○	○		○
2	進数(3) ①２進数 ②16 進数 ③ｎ進数	9	・進数と文字コードの概念を理解する			○		○	○
2	ディジタル表現(5) ①情報量 ②文字 ③画像 ④動画 ⑤まとめ	9	・ディジタル情報の表現について理解する			○	○	○	○

2	ハードウェアと ソフトウェア (3) ①ハードウェア ②ソフトウェア ③インタフェース	10	・ソフトウェアとハードウェアについて理解する	①提出物のほか、必要に応じて口頭試問を行う。 ②必要に応じて学習プリントを配布する。	学習プリント	○	○		○
2	ネットワークと インターネット(6) ①通信の歴史 ②LAN と WAN ③URL と DNS ④メール ⑤ルーティング ⑥無線と移動通信網	10 11	・ネットワークの仕組みについて理解する			○	○		○
2	アルゴリズムと プログラミング(8) ①アルゴリズム ②フローチャート ③・④課題作成 ⑤プログラミング ⑥プログラム言語 ⑦・⑧課題作成	11 12	・アルゴリズムとフローチャートを理解する ・プログラミングについて理解する			○	○	○	○
2	データベース(3) ①仕組みと役割 ②設計と活用 ③まとめ	12	・データベースの仕組みについて理解する			○	○	○	○
3	情報と表現(4) ①テーマ決定 ②情報収集 ③レポート作成 ④まとめ・提出	1	・レポート作成を通して多彩な表現を身に付ける			○	○	○	○